

1

解答解説のページへ

初項から第  $n$  項までの和  $S_n$  が、 $S_n = \frac{1}{6}n(n+1)(2n+7)$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) で表される数列  $\{a_n\}$  がある。

(1)  $\{a_n\}$  の一般項を求めよ。

(2)  $\sum_{k=1}^n \frac{1}{a_k}$  を求めよ。

**2**

解答解説のページへ

三角形  $OAB$  において、辺  $AB$  を  $2:1$  に内分する点を  $D$ 、直線  $OA$  に関して点  $D$  と対称な点を  $E$ 、点  $B$  から直線  $OA$  に下ろした垂線と直線  $OA$  との交点を  $F$  とする。

$\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$  とし、 $|\vec{a}| = 4$ 、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = 6$  を満たすとする。

- (1)  $\overrightarrow{OF}$  を  $\vec{a}$  を用いて表せ。
- (2)  $\overrightarrow{OE}$  を  $\vec{a}$ 、 $\vec{b}$  を用いて表せ。
- (3)  $9|\overrightarrow{OE}| = 20|\overrightarrow{OF}|$  となるとき、 $|\vec{b}|$  の値を求めよ。

**3**

解答解説のページへ

実数  $x$  に対して、 $f(x) = \sqrt{3} \sin\left(x + \frac{\pi}{6}\right) + 2 \sin^2\left(x + \frac{2\pi}{3}\right) + 4 \cos\left(2x + \frac{\pi}{3}\right)$  とおく。

- (1)  $t = \sin\left(x + \frac{\pi}{6}\right)$  とおく。  $\sin^2\left(x + \frac{2\pi}{3}\right)$  と  $\cos\left(2x + \frac{\pi}{3}\right)$  をそれぞれ  $t$  の式で表せ。
- (2)  $0 \leq x \leq \pi$  のとき、方程式  $f(x) = 0$  の解をすべて求めよ。

4

解答解説のページへ

$k$  を  $k > -1$  を満たす実数とする。直線  $l: y = (1-k)x + k$  および放物線  $C: y = x^2$  を考える。 $C$  と  $l$  で囲まれた部分の面積を  $S_1$  とし、 $C$  と  $l$  と直線  $x = 2$  の3つで囲まれた部分の面積を  $S_2$  とする。

- (1)  $S_1$  を  $k$  を用いて表せ。
- (2)  $S_2$  を  $k$  を用いて表せ。
- (3)  $k$  が  $k > -1$  を満たしながら動くとき、 $S_2 - S_1$  の最大値を求めよ。

1

問題のページへ

(1)  $S_n = \sum_{k=1}^n a_k = \frac{1}{6}n(n+1)(2n+7)$  であるとき、まず  $a_1 = S_1 = \frac{1}{6} \cdot 1 \cdot 2 \cdot 9 = 3$  となり、

$n \geq 2$  において、

$$\begin{aligned} a_n &= S_n - S_{n-1} = \frac{1}{6}n(n+1)(2n+7) - \frac{1}{6}(n-1)n(2n+5) \\ &= \frac{1}{6}n\{(n+1)(2n+7) - (n-1)(2n+5)\} = \frac{1}{6}n(6n+12) = n(n+2) \end{aligned}$$

$n=1$  をあてはめると、 $a_1 = 1 \cdot 3 = 3$  となり、成立している。

したがって、 $a_n = n(n+2)$  である。

(2)  $T_n = \sum_{k=1}^n \frac{1}{a_k}$  とおくと、(1) から、 $n \geq 2$  のとき、

$$\begin{aligned} T_n &= \sum_{k=1}^n \frac{1}{k(k+2)} = \sum_{k=1}^n \frac{1}{2} \left( \frac{1}{k} - \frac{1}{k+2} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left( \frac{1}{1} - \frac{1}{3} \right) + \frac{1}{2} \left( \frac{1}{2} - \frac{1}{4} \right) + \cdots + \frac{1}{2} \left( \frac{1}{n-1} - \frac{1}{n+1} \right) + \frac{1}{2} \left( \frac{1}{n} - \frac{1}{n+2} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left( \frac{1}{1} + \frac{1}{2} - \frac{1}{n+1} - \frac{1}{n+2} \right) = \frac{1}{2} \cdot \frac{3(n+1)(n+2) - 2(n+2) - 2(n+1)}{2(n+1)(n+2)} \\ &= \frac{n(3n+5)}{4(n+1)(n+2)} \cdots \cdots (*) \end{aligned}$$

なお、 $n=1$  のときは  $T_1 = \frac{1}{3}$  となるが、(\*) は成立している。

### [解説]

数列の和と一般項の関係についての基本事項の確認題です。

2

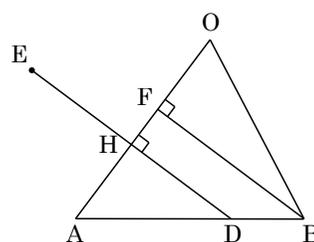
問題のページへ

- (1) 右図の  $\triangle OAB$  において,  $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$  とし,  $|\vec{a}| = 4$ ,  $\vec{a} \cdot \vec{b} = 6$  のとき,  $\overrightarrow{OF} = k\vec{a}$  ( $k$  は実数) とおくと,

$BF \perp OA$  から,

$$(k\vec{a} - \vec{b}) \cdot \vec{a} = 0, \quad k|\vec{a}|^2 - \vec{a} \cdot \vec{b} = 0$$

$16k - 6 = 0$  から  $k = \frac{3}{8}$  となり,  $\overrightarrow{OF} = \frac{3}{8}\vec{a}$  である。



- (2)  $AD : DB = 2 : 1$ , 直線  $OA$  に関して点  $D$  と対称な点を  $E$  とし,  $OA$  と  $DE$  の交点を  $H$  とすると,  $DH \parallel BF$ ,  $DH = \frac{2}{3}BF$  に注意して,

$$\overrightarrow{DE} = 2\overrightarrow{DH} = 2 \cdot \frac{2}{3}\overrightarrow{BF} = \frac{4}{3}\left(\frac{3}{8}\vec{a} - \vec{b}\right) = \frac{1}{2}\vec{a} - \frac{4}{3}\vec{b}$$

よって,  $\overrightarrow{OE} = \overrightarrow{OD} + \overrightarrow{DE} = \left(\frac{1}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}\right) + \left(\frac{1}{2}\vec{a} - \frac{4}{3}\vec{b}\right) = \frac{5}{6}\vec{a} - \frac{2}{3}\vec{b}$  である。

- (3)  $9|\overrightarrow{OE}| = 20|\overrightarrow{OF}|$  のとき, (1)(2)から,  $9\left|\frac{5}{6}\vec{a} - \frac{2}{3}\vec{b}\right| = 20\left|\frac{3}{8}\vec{a}\right|$  となり,

$$\frac{3}{2}|5\vec{a} - 4\vec{b}| = 20 \cdot \frac{3}{8} \cdot 4, \quad |5\vec{a} - 4\vec{b}| = 20, \quad 25|\vec{a}|^2 - 40\vec{a} \cdot \vec{b} + 16|\vec{b}|^2 = 400$$

すると,  $400 - 240 + 16|\vec{b}|^2 = 400$  となり,  $|\vec{b}|^2 = 15$  から  $|\vec{b}| = \sqrt{15}$  である。

### [解説]

平面ベクトルの三角形への応用に関する基本題です。

3

問題のページへ

(1)  $t = \sin\left(x + \frac{\pi}{6}\right)$  とおくと,

$$\sin^2\left(x + \frac{2\pi}{3}\right) = \sin^2\left(x + \frac{\pi}{6} + \frac{\pi}{2}\right) = \cos^2\left(x + \frac{\pi}{6}\right) = 1 - \sin^2\left(x + \frac{\pi}{6}\right) = 1 - t^2$$

$$\cos\left(2x + \frac{\pi}{3}\right) = \cos 2\left(x + \frac{\pi}{6}\right) = 1 - 2\sin^2\left(x + \frac{\pi}{6}\right) = 1 - 2t^2$$

(2)  $0 \leq x \leq \pi$  のとき  $\frac{\pi}{6} \leq x + \frac{\pi}{6} \leq \frac{7}{6}\pi$  となり,  $-\frac{1}{2} \leq t \leq 1 \cdots \cdots (*)$ 

$$f(x) = \sqrt{3} \sin\left(x + \frac{\pi}{6}\right) + 2\sin^2\left(x + \frac{2\pi}{3}\right) + 4\cos\left(2x + \frac{\pi}{3}\right)$$

$$= \sqrt{3}t + 2(1 - t^2) + 4(1 - 2t^2) = -10t^2 + \sqrt{3}t + 6$$

ここで,  $f(x) = 0$  の解は,  $f(x) = g(t)$  とおき  $g(t) = 0$  から,  $10t^2 - \sqrt{3}t - 6 = 0$ 

$$t = \frac{\sqrt{3} \pm \sqrt{3 + 240}}{20} = \frac{\sqrt{3} \pm 9\sqrt{3}}{20}$$

これより,  $t = \frac{\sqrt{3}}{2}$ ,  $-\frac{2}{5}\sqrt{3}$  となるが,  $-\frac{2}{5}\sqrt{3} < -\frac{1}{2}$  なので,  $(*)$  から  $t = \frac{\sqrt{3}}{2}$ よって,  $\sin\left(x + \frac{\pi}{6}\right) = \frac{\sqrt{3}}{2}$  から  $x + \frac{\pi}{6} = \frac{\pi}{3}$ ,  $\frac{2}{3}\pi$ , すなわち  $x = \frac{\pi}{6}$ ,  $\frac{\pi}{2}$  である。

## [解説]

誘導つきで, 三角方程式の解を求める問題です。なお, (1)については加法定理で展開する方法もあります。

4

問題のページへ

- (1) 直線  $l: y = (1-k)x + k \cdots \cdots \textcircled{1}$  と放物線  $C: y = x^2 \cdots \cdots \textcircled{2}$

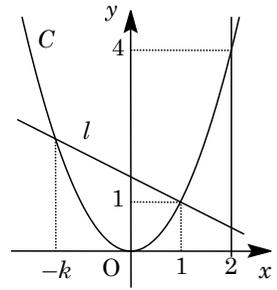
を連立して、

$$x^2 - (1-k)x - k = 0, (x-1)(x+k) = 0 \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$\textcircled{3}$ の解は  $x = -k, 1$  となり、 $k > -1$  から  $-k < 1$  である。

すると、 $C$  と  $l$  で囲まれた部分の面積  $S_1$  は、

$$\begin{aligned} S_1 &= \int_{-k}^1 \{(1-k)x + k - x^2\} dx \\ &= -\int_{-k}^1 (x-1)(x+k) dx = \frac{1}{6}(1+k)^3 \end{aligned}$$



- (2)  $C$  と  $l$  と直線  $x = 2$  で囲まれた部分の面積  $S_2$  は、

$$\begin{aligned} S_2 &= \int_1^2 \{x^2 - (1-k)x - k\} dx = \left[ \frac{x^3}{3} - \frac{1-k}{2}x^2 - kx \right]_1^2 \\ &= \frac{7}{3} - \frac{1-k}{2} \cdot 3 - k = \frac{1}{2}k + \frac{5}{6} \end{aligned}$$

- (3)  $k > -1$  のとき、 $S_2 - S_1 = \frac{1}{2}k + \frac{5}{6} - \frac{1}{6}(1+k)^3$  となり、 $f(k) = S_2 - S_1$  とおくと、

$$f'(k) = \frac{1}{2} - \frac{1}{2}(1+k)^2 = -\frac{1}{2}k(k+2)$$

これより、 $f(k)$  は増減が右表のようになり、  
 $k = 0$  のとき最大値  $\frac{2}{3}$  をとる。すなわち、 $S_2 - S_1$   
 の最大値は  $\frac{2}{3}$  である。

$k$	-1	...	0	...
$f'(k)$		+	0	-
$f(k)$		↗	$\frac{2}{3}$	↘

[解説]

放物線と面積を題材にした頻出の基本題です。